

Game Changer

ビジネスを変える

日本の課題解決に挑む



クレアン会長

蘭田 綾子氏

クレアン（東京都港区）会長の蘭田綾子さんは1963年、兵庫県西宮市で生まれた。人生に影響を与えた母は、甲子園球場の近所で雑貨店を営んでいた。「野球ファンから『トランプないか』と言われると、さっとトランプを出すような、なんでも売っている店

だった。お客さんの声意、生計のために22歳をよく聞いていたのだで雑貨店を開業した母と「思う」と感心する。が背中を押してくれた。蘭田さんが大学卒業後に入社した広告代理店では、男性社員だった。転職先では働かず、当初は女性誌の企画を担う会社だった。突発性急性難聴を発症。生活を変えよう、今では当たり前となった25歳で独立を決めた在宅勤務や時短、副

業を導入した。92年にブラジルで開催された「国連環境開発会議（地球サミット）」の報告を聞き、地球温暖化問題を伝えるべきだと直感。環境先進国のスウェーデンへ取材に行き、環境関連の書籍や電子媒体を手がけるようになった。2000年以降、企業が発刊する環境報告書の制作支援が本格化すると、レポートニングのクレアンと呼ばれるようになった。蘭田さんは報告書制作やコンサルティングを担当する企業の経営者インタビューを重視する。「お客さんの声をよく聞いた母譲り」

だという。国の審議会委員、企業の社外取締役、起業家支援と活動の幅も広がった。ESG（環境・社会・企業統治）が潮流となり、クレアンの経営も順風となった14年、母が他界した。「人々に迷惑をかけなさんな」と「人のお役に立ちなさい」が口癖だった母は、最後、「もっと社会貢献をしたかった」と言い残した。その遺志を引き継ぎ、蘭田さんはジェンダー平等と地方創生を支援する公益財団法人「みらいRIT A」を設立。活動の軸足を移すため23年8月、クレアンの社長を40代の富田洋史さんに譲った。行動力と人脈、そして母の言葉を胸に抱いた挑戦でも大輪の花を咲かせる。（蘭田綾子さんの「蘭田綾子さんの会社創業35周年 回、おわり」）



雑貨店を営んだ母（中央）、会社員だった父（右）との和歌山旅行